

PCフォーラム

JA水郷つくばパソコン研究会会報

2023年3月号

編集・発行 JA水郷つくばパソコン研究会

事務局：JA水郷つくば 営農部営農企画課

住所：土浦市田中1-1-4 電話：823-7001

ホームページ <https://www.dappe.com/>

ブログ <http://dappe.chicappa.jp/japc/>

メールアドレス japc2@dappe.com

FACEBOOK JA水郷つくばパソコン研究会

Instagram #JA水郷つくばパソコン研究会



定例会予定 学習のテーマ:パソコン簿記、エクセル、スマホ、SNS

◆3月7日、21日 WEB、14日定例会、

28日 PCフォーラム発行、講座など

◆4月4日、18日 WEB、11日定例会、

25日 PCフォーラム発行、講座など

※定例会予定は変更になる場合があります。HP、SNS等をご覧ください。



会員の皆さんへ

こんにちは。いかがお過ごしですか。令和5年も2か月が過ぎぽかぽかと温かくなるころを迎えると何かと忙しくなってきますね。隔週の定例会も会員さんの希望がある講座や質問を受け付けております。参加希望の方はライングループ等でお知らせください。

今月の特集

「ネットの時代におけるデマやフェイクニュース等の不確かな情報」

ネット上には、人を混乱させるためにわざと流されたデマ情報も。

身近な医療・健康情報、うわさ話やゴシップネタなどにも、間違った情報があります！

どのようなメディアでも、間違った情報が流布されることはあり得ます。

特に SNS の場合、誰もが容易に情報発信できることから、正しくない情報もたくさんあります。中には、騒ぎを起こすことが目的で発信されたデマも。目にした情報をうのみにせず、正確性が判断できない場合には安易に情報を投稿・拡散しないことが大切です。

確認方法

● 他の情報と比べてみる

ネット検索し、複数の情報を読み比べましょう。本や新聞など、ネット以外で調べるのもお勧めです。

● 情報の発信元を確かめる

発信元が明らかであっても、信頼できる人なのか、信頼できる Web サイトなのかを確認しましょう。

● その情報はいつ頃書かれたものか確かめる

元の情報が古いものだった場合、現在とは状況が異なるかもしれないので、注意しましょう。

● 一次情報を確かめる

その情報が引用や伝聞だった場合は、元になったオリジナルの情報源を探して確かめてみましょう。

日本におけるフェイクニュースの実態

- フェイクニュース等の用語の認知状況

「フェイクニュース」という用語について知っている人は全体の約8割。

一方で、「ディープフェイク」や、ファクトチェックという用語を知っている人は全体の約2割。

・フェイクニュース

定まった定義はないが、何らかの利益を得ることや意図的に騙すことを目的としたいわゆる「偽情報」や、単に誤った情報である「誤情報」や「デマ」などを広く指すもの

・ディープフェイク(Deepfake)

AI 技術や機械学習の技術を悪用して作り出された偽の映像

・ファクトチェック

偽情報に対抗するために、情報の真偽を検証する活動のこと

・ フェイクニュースを見分ける自信



フェイクニュースを見分ける自信について、全体では、「自信がない」人が約4割。全ての年代において「自信がない」が「自信がある」を上回った。

フェイクニュースを見かける頻度

SNS やブログなどでフェイクニュースをみかけた頻度が「週1回以上」となったのは全体の約3割。

・ 見たことのあるフェイクニュースのジャンル

見たことのあるフェイクニュースのジャンルについては、「スポーツ・芸能・文化」(43%)、「社会・事件」(38.3%)、「生活・健康」(26%)、「災害」(25.3%)の順に多かった。

フェイクニュースに接することが多いと思う情報源

フェイクニュースに接することが多いと思う情報源について、「SNS」が全体で約6割であり、全ての年代において最も高かった。

○ フェイクニュースの拡散経験・拡散手段

全体では、「拡散したことはない」人が約7割と最も高い。

一方で、全体の約15%が「拡散した経験がある」と回答。若い年代ほど「拡散した経験がある」と回答した割合が高い傾向が見られた。

拡散手段をみると、「インターネットでは拡散しなかったが、家族や知人に直接会って話したことがある」、「Facebook のシェアや、Twitter のリツイートを行ったことがある」が高かった。

・ フェイクニュース拡散後にとった行動

フェイクニュースを拡散してしまったと気づいた後、ほとんどの人が訂正をしていた。

訂正方法は、「直接伝えた家族や知人に対し、情報が間違っていたことを伝えた」、

「Facebook のシェアや、Twitter でのリツイートを解除したり、SNS やブログ上の投稿を削除した」、「SNS やブログ上で、自分が拡散投稿した情報が間違っていたことを知らせる情報を新たに投稿した」の順に多かった。

一方で、「情報が間違いであることに気づきつつ、様々な方法で情報をもっと拡散した」、「情報が間違いであったことに気づいたが、何もしなかった」人も存在した。

(総務省 HP より)

【編集後記】

今回はスマホやパソコンで絶えず流れてくるニュースなどの情報がどれほど信用できるものなのか判断をするのがいかに難しい時代になってきたかということを考えてみました。その中でデジタル社会に乗り遅れてきている日本ではこれからますますデジタル決済やマイナンバーカードなどのデメリット情報に気を取られて怖いという考えばかりでは生活してゆけません。その中でどう賢く使いこなしていくか勉強していきましょう。

(小)

-----ここから下は WEB 版です-----

WEB 版 特集

青色申告会計ソフト

◆もともと研究会ができたのは、農家の青色申告をパソコンで行おうという目標のために結成されたようなものです。平成元年に土浦普及所管内の農業者有志で結成されたのが「土浦パソコン利用研究会」です。(詳しくはホームページの研究会についてをご覧ください)

まず会計ソフトに悩んで、何しろ NEC の PC9801 でフロッピーディスクを使っているころでした。私はいろいろな広告を調べて N88BASIC の会計ソフトを買いました。普及所でも貸方借方を教えてもらっていたのですが、入力が難しかったです。

◆「弥生会計」

というのが日本マイコン販売という会社から発売されて、当時8万円でしたがそれを購入しました。その特徴は、貸方借方を意識しないで単式簿記の感覚で入力できるというものでした。私はそれにほれ込んで仲間に進めました。当時茨城大学の教室も借りて学習をしたり、大学の先生方にも教えてもらっていたのですが、塩先生という方が「茨城大学「会計システム」というのを開発されたので、モニターを兼ねてみんなで学習しました。

JA 土浦にパソコン教室が平成4年に出来上がってからは茨大に通わなくなりました。JAの研究会とは別に普及所でもだんだん会計ソフトの講座を行うようになってきました。そこでも「弥生会計」が使われていました。

◆「ソリマチ農業簿記」「農作業日誌」

が発売されて、私は、会計は「弥生」作業日誌は「ソリマチ」を使いました。作業日誌は圃場ごとの作付けや作業時間などが集計されてそれは大変役に立ったソフトでした。これも皆さんに進めましたが値段もある程度したので会計ソフトよりはまいち少なかったようです。「ソリマチ」の会社は新潟の大きな会計事務所です。当時関城町のパソコンクラブが日本一早くパソコンプラザというのを開設していて交流していました。その皆さんと新潟の

◆ソリマチの会社を見学

に行ったこともあります。ソリマチの社長はユニークな方で、日本全国公演をして歩いて農業でのパソコン利用以外にも多岐にわたる興味深い話をしてくれました。確か土浦の合同庁舎にも来てもらったような気がします。ソリマチでは全国の普及所で「ソリマチ農業簿記」を普及してもらうために講座用のソフトを提供して普及所での講座が盛んにおこなわれました。このソフトは JA バンクをはじめ99%の銀行やカードの明細を取り込めるようになっています。農業者、土地改良区、JA 向け、農業委員会向けなどのバージョンがあります。

◆現在定価 66,000 円ですが、経営分析や損益分岐点の表示などもできます。1ユーザーで2台のパソコンにインストールしても動きますが、年次更新はオリジナル DISK がないとできません。

一方、「弥生会計」は現在私が買ったバージョンはプロフェッショナルバージョンで 88,000 円、これが経営分析や損益分岐点分析がついています。スタンダードバージョンというのが、経営分析などが省かれたもので

52,800 円(値段はいずれも税込み)です。1ユーザーで1台のパソコンでしか動きません。

◆入力は単式簿記感覚で・・・どちらでもできます



今回はこの二つのソフトの比較ですが、どちらにしても慣れることと自分で使いこんでゆくことですね。振替伝票のように貸方借方があるページでなく、現金取引は「現金出納帳」預金は「預金出納帳」売掛は「売掛帳」のように単式簿記の感覚で入力していくのがミソです。使い方に振替伝票で入力するように書いてあってもそうしないことです。

写真(宮崎さん)

弥生会計プロフェッショナルの画面

ソリマチ農業簿記の画面



PC フォーラム発行作業の様子

